

JAの都市農村交流の取組事例集 2025年版



目次

はじめに	・・・1
都市農村交流について	・・・1
JAによる都市農村交流の取組みの種類と地域への効果	・・・1
JA大北の教育旅行	・・・2
JAいわて花巻の教育旅行	・・・3
JAつべつの援農の取組み	・・・4
JA大井川の農泊の取組み	・・・5
4JAの取組みのまとめ	・・・6
JAの強みを生かした都市農村交流による地域振興	・・・6
おわりに	・・・6



はじめに

JAでは、これまで様々な都市農村交流の取組みを行うことで、食農教育や農業振興、地域振興に貢献してきた。近年、JAによる地域振興がより求められるなか、JAが都市農村交流の取組みを通じて、都市住民と農家の関わる機会を多く創出していくことが今後ますます重要となる。

本事例集では、JAによる都市農村交流の現在の取組みを広く知っていただくことを目的に、4つのJAによる都市農村交流の取組みを中心に紹介する。



都市農村交流について

- 都市農村交流の推進は、「人・もの・情報」の行き来を活発にし、都市と農山漁村それぞれに住む人々がお互いの地域の魅力を分かち合い、理解を深めるために重要な取組み」とされている。（農林水産省「食料・農業・農村白書（平成24年度）」参照）
- 都市農村交流の具体例には、グリーン・ツーリズム、農作業体験、援農ボランティア、体験型修学旅行、食育、二地域居住などがある。

第30回「JA全国大会決議」における都市農村交流の位置づけ

くらし・地域活性化戦略	活動と事業を通じた <u>地域社会の活性化</u> ・地域共生社会の実現
組織基盤強化戦略 (JA仲間づくり戦略)	価値観を共有する <u>仲間づくり</u> （組合員数の維持・拡大）

JAによる都市農村交流の取組みの種類と地域への効果

① 食育、教育旅行

内容 農家民泊、農業体験、修学旅行、体験農園、料理教室、出前授業

JA大北、JAいわて花巻、JA紀の里、JA庄内みどり、JAはだの

③ グリーン・ツーリズム、観光

内容 農泊、収穫体験、交流ツアー、道の駅、体験型施設、オンライン体験、ドライブラリー

JA大井川、JA邑楽館林、JAレーク滋賀

② 援農

内容 援農ボランティア、農業アルバイト、農業塾、猫の手援農隊、JA援農隊、アグリケーション

JAつべつ、JA大井川、JAさっぽろ（旧いしかり）、JAふくしま未来、JAふじ伊豆、JAにしうわ、JAおきなわ

期待される地域への効果

農業や観光による
地域振興

関係人口づくり

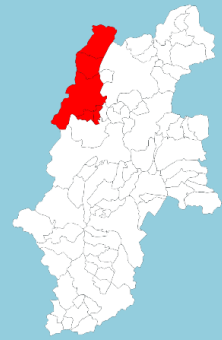


*黄色のラインマークがついたJAは本事例集で紹介。そのほかのJAについては、JA都市農村交流全国協議会の取組事例集等にて紹介されている。詳しくは裏表紙に記載。

JA大北の教育旅行

経緯

- JA大北では、管内で民宿を経営する農家と連携しながら、教育旅行の受入を通じて農家所得向上に貢献。
- 夏休みこども村、りんごの木オーナー制度など都市農村交流の取組みを50年以上継続。
- 武蔵野市の小中学校の教育旅行（セカンドスクール）の受入は20年以上継続。このほかにも全国の教育旅行の受入に力を入れている。



【管内】長野県大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村
【組合員数】正組合員7,137人、准組合員4,870人
【特産品】米、雪中キャベツ、りんご、はくばの豚

取組内容

- 2023年度の教育旅行の受入校数は10校、延べ宿泊者数は2,493人。
- 受入農家は主に農業と民宿（旅館）を経営する農家41軒で60～70代が中心。1軒の受入人数は9～10人。管内の最大受入人数は210人。受入時期は5月～11月。
- 宿泊数は、セカンドスクールで2～3泊、その他の学校では1泊。農作業、わら細工、藤細工、おやき、うすやき作りなどの体験を個々の農家が提供。
- 体験型学習やSDGs、オリンピックレガシーなど、近年の教育の関心に合う学習を提供。

JAの役割

- 総務部観光課の職員2人が担当。旅行会社と学校との日程調整、教員の下見の引率、受入農家の調整、受入農家への研修、子供たちへの事前学習会、受入当日の引率やトラブル対応などを行う。受入後には学校へ新米を送付したり、手紙のやりとりも行う。
- 食品アレルギーの事前チェックを行い、農家が食事提供する際に安全性を確保。

効果や方向性

- 教育旅行の受入によるJAと組合員との関係強化および民宿の稼働率向上に寄与。
- 子供が自然などに感動する様子を見て、農家も元気を得たり、地域の良さを再認識している。
- 白馬を知ってもらう機会となり、教育旅行に参加した学生が家族で再来訪している。
- 長野県北アルプス地域振興局と連携して、関西、関東、中京、台湾への営業活動を実施。試験的にインバウンドの受入も実施。
- 関係人口づくりの取組みとして、2024年8月に全国農協観光協会の「快汗!猫の手援農隊」を新たに受け入れ、ミニトマトの農業ボランティアを確保。



入村式の様子

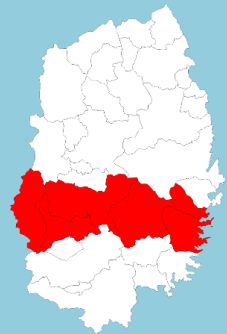


JAいわて花巻の教育旅行

経緯

- JAいわて花巻では、2000年から農家所得向上のため、農家民泊での教育旅行の受入を開始。
- 2006年より複数の団体からなる「はなまきグリーン・ツーリズム協議会」注の事務局をJAいわて花巻が担い、花巻市内の教育旅行の受入対応を実施。

✓ 注 JAいわて花巻、花巻市、花巻市教育委員会、県南広域振興局農政部花巻農林振興センター、一般社団法人花巻観光協会、花巻市森林組合、はなまきグリーン・ツーリズム受入農家の会、いしどりやグリーン・ツーリズム受入農家の会、大迫町グリーン・ツーリズム受入農家の会、東和町まちむら交流推進協議会



【管内】岩手県花巻市、北上市、遠野市、釜石市、西和賀町
【組合員数】正組合員19,738人、准組合員19,388人
【特産品】米、麦、大豆、野菜、雑穀、花き、果樹、畜産

取組内容

- 2023年度の教育旅行の受入校数は7校、受入者数（日帰り含む）は842人。
- 受入農家は約30軒で60～70代が中心。教育旅行の受入は毎年5月頃に実施。
- 各農家で1泊か日帰りで受入を行い、田植え、野菜の収穫、花の種まき、りんごやぶどうの剪定などの体験を提供。
- 近年は受入農家の数が減少してきており、農家の負担を減らすため、日帰り体験では弁当持参または地元の温泉施設や産直の店舗に依頼した郷土食の弁当を提供。また、遠野のグリーン・ツーリズムの団体と連携し、分泊を実施。



JAの役割

- 企画管理部企画課の嘱託職員1人が兼任で対応。旅行会社と受入農家の間に入り、日程や受入農家の調整、受入当日の対応を行っている。
- 年1回、農家を集めて衛生講習会を実施するとともに、意見交換会を開催し農家からの要望を収集。要望に応じて、バスの送迎や入浴料金・寝具レンタル料金の助成等の支援を実施。また、体験料の値上げを旅行会社に交渉。

効果や方向性

- 農家の副収入が増えたり、都会から人がくることで地域が賑わう。
- 教育旅行で花巻に来ていた子供が大人になってからお世話になった農家を訪れることもあり、農家の生きがいになっている。
- 受入農家の減少が課題となっているが、農業法人も含め、新たな受入農家の勧誘を行っている。
- 受入のお手伝いにも一部報酬を支払い、農家民泊に興味を持ってもらうきっかけづくりをしている。



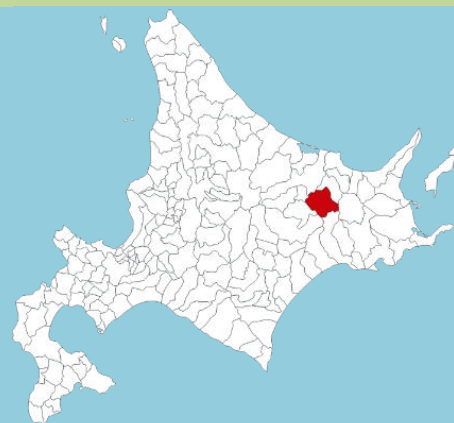
農家が子供たちに種まきを教えている様子

JAつべつの援農の取組み

経緯

- JAつべつでは、春季と秋季の畑作の**労働力確保**が課題であり、2017年9月に「津別町農業労働力支援協議会」を設立注。
- これを契機にJAつべつが中心となり、津別町外からの農業アルバイトの確保による援農の取組みを継続して実施。

✓ 注 メンバーは、JAつべつ、津別町、網走農業改良普及センター美幌支所、北海道農業協同組合中央会北見支所、株式会社あぐり、株式会社三星運輸



【管内】北海道津別町
【組合員数】正組合員201人、准組合員361人
【特産品】小麦、ジャガイモ、てん菜、玉ねぎ、豆類、酪農、畜産

取組内容

- おてつたび、旅ワーク、あぐりナビなどのほか、JAつべつの取引先の企業や生協、北見工業大学、道外の自治体（兵庫県）など複数の団体から農業アルバイトを募集。
- 2024年秋は、畑作農家8軒とJAのコントラクターの農業に30人の援農者が従事。
- 作業は、ジャガイモと玉ねぎ、かぼちゃの収穫。時給1,100～1,250円（保険料別）。
- 一人当たりの作業期間は2週間～1か月程度。地域のNPOが管理・運営する宿泊施設に滞在。
- 援農者の年代は20代～70代で、リピーターが半数。農業を経験してみたかった、一度参加してみてもまた参加してみたいと思ったなど、参加動機は様々。

JAの役割

- 営農部営農課の職員1人が担当。必要な農業アルバイトの数と時期の意向を12月に農家に聞き、農業アルバイトの書類審査、日程・人数の調整、一部送迎を行う。
- 援農に係る手数料はJAは無料。宿泊費や旅費等は協議会等から一部負担。
- 援農者を受け入れた農家のサポートや援農者の観光案内も行う。



効果や方向性

- 援農を通じて、**組合員との関係強化**および生産量の維持による**JAの手数料収入の安定的な確保**に寄与。
- 畑作農家の離農を防ぎ、**遊休農地の発生を抑制**。
- **地元宿泊施設の稼働率向上**に貢献。
- **リピーターも多く、関係人口の創出や津別町の知名度向上**に貢献。
- 農業アルバイトの継続的な確保にあたり、時給の値上げや旅費の補助を検討。



玉ねぎ収穫の作業風景（左：北見工業大学の学生）

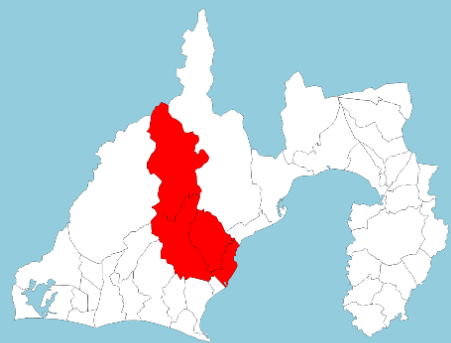
JA大井川の農泊の取組み

経緯

- 農林水産省の農泊推進対策の事業に採択され、2019年度～23年度にJA大井川は「大井川農泊推進協議会」^注の事務局を務めた。SAVOR JAPANや100年フードなど、大井川流域の面的な観光振興に取り組んできた。

- 2021年度から、お茶をテーマに東京都の小学生向けの食育や援農、収穫体験も開始。

✓ 注 JA大井川、静岡県志太榛原農林事務所、島田市、川根本町、島田市観光協会、川根本町まちづくり観光協会、KADODE OOIGAWAを構成団体とし、複数のオブザーバーや連携団体が参画。現在はふじさんグローバルデザインセンター株式会社が事務局。



【管内】静岡県藤枝市、焼津市、島田市、川根本町

【組合員数】正組合員16,501人、准組合員36,420人

【特産品】お茶、水稻、みかん、レタス、イチゴ、トマト、花き

取組内容

- 【食育】2021年度から東京都武蔵野市立関前南小学校4年生のプレセカンドスクールの受入を開始。お茶をテーマに、お茶の栽培や種類に関するレクチャーやJA大井川茶業部金谷工場の工場見学、蓬莱橋や牧之原大茶園などを案内。2日目に体験型施設「KADODE OOIGAWA」にて、お茶ツアーを実施。
- 【援農】2021年度からJA援農支援隊の受入を開始。2023年度は、みかん農家7軒で71人、イチゴ農家5軒で49人、レタス・きゅうりの作業で10人の援農者を受入。大学のボランティアサークルからの援農者も受入。
- 【収穫体験】2022年度から農産物の収穫体験をネットショップで販売。JAの試験圃場でのさつまいもや玉ねぎの収穫、JAの敷地内の梅の収穫、組合員のみかん収穫を実施。管内を含め、近隣自治体の住民が参加。

JAの役割

- 営農経済部農業経営支援課の職員が食育、援農、収穫体験を担当。
- プレセカンドスクールには、営農経済部茶指導販売課、金谷工場の職員や工場長、KADODE OOIGAWAの従業員も対応。

効果や方向性

- 援農や収穫体験により、農家の収穫作業の負担軽減に寄与。JAの試験圃場や敷地の農産物の収益化。
- 収穫体験の差別化とJAの手数料確保のため、みかんの収穫時に生絞りみかんジュースを提供するなど、付加価値を提供。
- 農泊の取組みは、現役の農家への作業負担が大きく収入が見込みにくいことから、茶畑の景観のスペースの有料貸出などの収益化を検討。



プレセカンドスクールでJA職員がお茶のレクチャーをする様子

4JAの取組みのまとめ

JA名	JA大北	JAいわて花巻	JAつべつ	JA大井川
開始年	1971年	2000年	2017年	2019年
取組内容	教育旅行（武蔵野市セカンドスクールほか）、夏休みこども村、援農、りんごの木オーナー制度	教育旅行	援農	農泊、体験型観光施設の運営、食育（プレセカンドスクール）、援農、収穫体験
参加者	小中学生、快汗!猫の手援農隊ほか	小中学生、高校生	大学生、社会人、生協組合員ほか	観光客、小学生、大学生、地域住民、JA援農支援隊
地域振興	農家所得向上、民宿の稼働率向上、地域の愛着形成、地域の知名度向上、リピーター形成、関係人口づくり	農家所得向上、地域の賑わい創出、農家の生きがいづくり	労働力確保、遊休農地対策、宿泊施設の稼働率向上、リピーター形成、関係人口づくり、地域の知名度向上	面的な観光振興、収穫作業の負担軽減

JAの強みを生かした都市農村交流による地域振興



営農を通じた地域振興

- ・農家が抱える課題を把握しやすい
- ・地域の食文化や農業に詳しい
- ・営農の維持により、獣害の抑制や景観保全に寄与



- ✓課題に適した対処（援農、収穫体験）が提案できる
- ✓面的な観光振興において、食や農をコンセプトとした新しい観光コンテンツの提供が可能
- ✓美しい景観の維持により、地域に旅行者が訪れる動機づくりにつながる

JAのネットワークの活用

- ・地域農業を守る代表的な団体として、地域内の多様な主体からJAが認知
- ・JAやJA職員により、地域内のネットワークや信頼が長年にわたり構築



多様な主体と連携した、食や農を軸とするJAの地域振興へ

おわりに

JAの地域振興への対応において、都市農村交流の取組みが様々な地域課題解決に資する可能性が今後期待できる。特に、地域内の多様な主体と連携しながら各主体で適切に役割を分担していることが活動の継続における示唆と考えられる。

本事例集が都市農村交流に取り組む際の参考になれば幸いである。



ご案内

■ JA都市農村交流全国協議会の事例集 (JA都市農村交流全国協議会サイト内)

- 食農教育によるJAグループの都市農村交流～JAの役割・特徴を最大限に発揮するために～ (2023年度)

<https://ja-koryu.com/post-2244/2024/03/21>

- 労働力支援に資するJAグループの都市農村交流 (2022年度)

<https://ja-koryu.com/post-2077/2023/08/15>

- 次世代へつなぐJAの都市農村交流ーコロナ禍を乗り越えてー (2021年度)

<https://ja-koryu.com/post-1981/2022/04/22>

■ 農泊手引き (百戦錬磨サイト内)

<https://www.hyakuren.org/wp-content/uploads/2024/04/c91bb9424e11de7872a960167c09842a.pdf>

■ 農泊ローン

- JAバンクでは、「基金協会保証付き農泊ローン」を、個人の農業者かつ組合員を対象に、一部県域 (青森、秋田、山形、福島、群馬、栃木、茨城、富山) で展開しています (2025年1月現在)。
- ホームステイ型、空き家活用型いずれにも対応し、貸付金額は5,000万円以内、貸付期間は30年以内となります。各県域で条件が異なる場合があります。

